



**小野寺 防衛大臣来沖 (p5参照)**



翁長知事との会談

**普天間飛行場東側沿いの土地返還 (p2～4参照)**



返還式での記念撮影

**福田 防衛大臣政務官来沖 (p5参照)**



概算要求の説明を行う福田政務官 (写真：中央)

**目次**

**CONTENTS**

普天間飛行場東側沿いの土地返還について…………… 2  
 普天間飛行場東側沿いの土地返還式及び祝賀会 …… 3～4  
 普天間飛行場東側沿いの土地返還に係る地権者説明会 …… 5  
 小野寺防衛大臣の沖縄訪問…………… 5  
 福田防衛大臣政務官の沖縄訪問…………… 5  
 MV-22オスプレイ関連…………… 6～7  
 嘉手納飛行場を巡る諸問題への対応について…………… 7  
 普天間飛行場代替施設整備事業の進捗状況…………… 8

「第5回久辺三区の振興に関する懇談会」の開催について… 9  
 第25回「沖縄県在日米軍事事故対応に関する  
 合同協議会」について…………… 9  
 平成29年度の防衛白書の刊行…………… 9  
 平成30年度概算要求における沖縄関係経費…………… 10  
 防衛施設周辺対策事業…………… 11  
 特別優秀工事等顕彰及び優秀工事等顕彰…………… 12  
 建設工事に係る入札・契約制度説明会の実施…………… 12  
 嘉手納ハーリー…………… 12

## 普天間飛行場東側沿いの土地返還について

### ○返還概要

普天間飛行場をかかえる宜野湾市は、幹線道路である国道58号、国道330号の慢性的な渋滞が課題の一つとなっています。

同市は、この渋滞を緩和するため市道宜野湾11号の整備を進めていましたが、普天間飛行場東側沿いの土地の返還が必要な部分については事業の中断を余儀なくされていました。

7月31日、普天間飛行場東側沿いの土地の返還が実現したことにより、道路整備事業が再開されることになります。宜野湾市長をはじめとする地元関係者や土地所有者の皆さんのこれまでのご理解とご協力に対し感謝申し上げますとともに、今回の返還にご尽力された米軍関係者の方々に敬意を表します。



### ○返還までの主な経緯

- 平成8年3月、日米合同委員会において、返還対象の土地にある巡回道路等の移設を条件に返還を合意
- 平成25年8月、佐喜眞宜野湾市長から、普天間飛行場の一部返還（市道宜野湾11号用地）に向けた早急な解決を要請
- 平成27年12月、日米共同発表において、普天間飛行場の東側沿いの土地の返還に向けた作業を加速させ、平成29年度中に実現することを確認。同月、返還条件である巡回道路等の移設工事を開始
- 平成29年4月、巡回道路等の完成
- 同年7月31日、返還



## 普天間飛行場東側沿いの土地返還式及び祝賀会の開催

8月1日、当局と宜野湾市の共催により普天間飛行場東側沿いの土地返還式・祝賀会を宜野湾市内のラグナガーデンホテルで開催しました。

この式典には、日本側からは佐喜眞宜野湾市長をはじめ、宮澤防衛大臣政務官（当時）、石原内閣府副大臣（当時）、翁長沖縄県知事が、米側からはローレンス・D・ニコルソン第3海兵遠征軍司令官などが出席しました。式典では佐喜眞市長、宮澤政務官、ニコルソン司令官からの挨拶の後、米側から日本側に今回の返還を象徴する盾が手渡されました。

また、式典後行われた祝賀会では、沖縄国際大学琉球風車のエイサーなどが披露され、和やかな雰囲気の中、今回の返還が実現したことを祝いました。

### 佐喜眞宜野湾市長挨拶



普天間飛行場東側沿いの土地返還式を開催するにあたり、地元宜野湾市を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

昨日7月31日、普天間飛行場の東側沿い約4ヘクタールの土地の返還が実現いたしました。今回の返還は、市道整備を長年待ち望んでおりました返還地に隣接する宜野湾区、中原区、愛知区など地域にお住まいの皆様をはじめ、9万8千名余の宜野湾市民の大きな喜びであり、市長である私自身も市民とともに、今後変わっていくまちの未来に期待をせずにはられません。これはひとえに、地元の声に応え日米両政府が真摯に取り組んでいただいた成果であり、本日ご臨席いただいております関係者の皆様の多大なるご協力とご尽力の賜物でございます。市民を代表しまして、深く感謝を申し上げます。

ご承知のとおり、普天間飛行場は、宜野湾市のまちの中心に位置し、市域面積の約25パーセントを占め、危険性に加え都市機能・交通体系・土地利用等、効率的なまちづくりを進める上で市民生活にも大きな影響を与えると同時に、経済活動の阻害要因にもなっております。このような中、普天間飛行場の東側沿いの土地が一部返還され、長年待ち望まれていた市道整備が実現できる運びとなり、市民福祉の向上が図られることは基地負担軽減として大きな意義があるものと理解しております。

今回の返還を機に道路整備事業が再開することとなりました、宜野湾11号道路整備事業につきましては、平成2年から四半世紀以上に渡り事業が中断し進展がございませんでした。これまでの経緯を振り返りますと、市道宜野湾11号は、昭和54年度、当時の安次富盛信市長のもとで、事業採択がなされました。計画延長は3,487m、これまで、基地の返還が伴わない道路整備につきましては、昭和59年度から昭和62年度にかけて上原側474m、昭和54年度から平成元年度にかけて宜野湾側947mの整備がすでに完了しております。

その一方で、基地側の返還を要する宜野湾11号道路整備計画、延長2,066m及び中原進入路整備計画、延長294mの両事業につきましては、地元自治会等の早期整備要請がある中、事業の取り下げがなされるなど、特段の進展がなく、事業再開の目途が立っておりませんでした。

このような中、私が市長就任後、安次富盛信市長の思いを引き継ぎ、まずはじめに国の関係機関に対し求めたのが、普天間飛行場があるが故の歪な道路網の解消策として、慢性的な交通渋滞の緩和、地域の生活環境の改善など多くの課題解決となる、宜野湾11号の道路整備及び中原進入路道路整備事業の再開の要請でありました。本要請につきましては、関係機関のご理解、ご尽力により、これまで様々な困難がございましたが、平成26年度より事業が再開される運びとなりました。今回の土地の返還に至ったことは、感慨深いものがございます。

本市としましても、宜野湾11号道路整備事業にあたりましては、地権者の皆様のご意見をよくお伺いし、ご理解を得ながら、関係機関との連携も密にし、平成31年度の供用開始に向け、丁寧かつ迅速に事業を進めていく所存でございます。

今回の土地返還は、平成27年3月31日に返還されましたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区と併せまして、宜野湾市の未来への一歩となり、約481ヘクタールに及ぶ普天間飛行場の全面返還へ繋がる道になるものと確信をしております。本市では、一日も早い普天間飛行場の返還を実現するとともに、基地跡地利用の推進に向けた取り組みとして、本年7月1日の市民の日に、『普天間未来基金』を創設させていただきました。本基金を通じ、跡地利用に伴う将来の財政需要に備えるとともに、大きな可能性を秘めた基地跡地というフィールドにおいて活躍することになる未来を担う人材育成などに活用していきたいと考えております。

普天間飛行場の跡地利用は、宜野湾市の振興はもとより、沖縄県ひいては我が国の発展に貢献するものと確信しております。本日パンフレットを配布しておりますので、是非ご覧いただき、皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、返還にご尽力いただきました、本日ご臨席の前沖縄県知事仲井眞弘多様をはじめ、関係者全ての皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様のご健勝を心から祈念申し上げ、私の挨拶といたします。



沖縄国際大学琉球風車と佐喜眞市長

## 宮澤防衛大臣政務官挨拶

本日ここに、佐喜眞宜野湾市長との共催により、翁長沖縄県知事、エレンライク総領事、ニコルソン在日米海兵隊司令官をはじめ、関係する皆様ご臨席の下、「普天間飛行場東側沿いの土地返還式」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

この土地は、昭和61年に要請をいただいて以来、30年の時を経て、ようやく、返還を実現することができました。今日に至るまでの地元の皆様、ご臨席の皆様のご理解とご協力に心から感謝、御礼を申し上げます。

平成25年4月、「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」が発表されましたが、平成27年12月には3件の土地が具体的な年限を付して前倒して返還されることになりました。本件はその最初の成果であります。

これにより、市道宜野湾11号線が全線開通すれば、周辺地域の交通渋滞が緩和され、地元宜野湾市の皆様方の利便性も格段に向上するでありましょう。政府としては、今後、市道建設事業についても、必要な支援を行っていく考えでございます。

私事ではございますが、平成14年の夏、青年活動をしていた私は、当時交流のあった普天間一区青年会のお招きで、「旧益エイサー道ジュネー」を夜通し見学させていただきました。その夜は公民館に泊まり、朝は「なかみ汁」をご馳走になりました。大変おいしかったと記憶しております。その時、友人が、基地のある普天間・宜野湾の生活の思いを語ってくれました。私はその時、「いつか友人の思いに応えたい。」心でそう念じたのでございます。

沖縄の基地の負担を軽くする、しかも目に見える形で減らす、それは、政府の大きな責任であります。

去年は、北部訓練場の過半、約4,000ヘクタールの返還が実現しました。沖縄県内の米軍施設の約2割、本土復帰後、最大の返還です。嘉手納以南の土地の返還についても、普天間飛行場の全面返還を含め着実に進めるとともに、跡地利用を通じた沖縄全体の発展に寄与するよう全力で取り組んでまいります。

安倍政権発足以来5年、沖縄の基地負担軽減のため、「できることはすべて行う、そして目に見える形で実現する」そういう思いで、今日まで全力で取り組んでまいりました。そしてこれからも、地元の皆様の理解を得る努力を続けながら、確実に結果を出していかなければなりません。

最後に、改めて、今回の返還のために昼夜問わず誠心誠意ご尽力してこられた関係者の皆様方に改めて感謝申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ニコルソン第3海兵遠征軍司令官挨拶

こんにちは、そして、はいさい。宮澤防衛大臣政務官、翁長沖縄県知事、佐喜眞宜野湾市長、そしてご来賓の皆様。本日この式典に参加できますことを光栄に存じます。また、日本政府、沖縄県、宜野湾市関係者の皆様、建設関係者、エンジニアの皆様、海兵隊太平洋基地関係者など、今回の土地返還の実現にご尽力された皆様に対し、心より感謝を申し上げます。

今回返還される土地の面積は小規模ではございますが、これまでの、そしてこれからもおこるであろう土地返還の、安定かつ継続した進捗を、裏打ちするものでございます。

今回の土地の返還も、また将来の土地返還に関しましても、連携して達成するためには、全ての利害関係者の間でオープンな継続した相互の信頼、尊敬、そして調整が必要でございます。

私は、返還事業に携わり、成し遂げた日米チームの仕事ぶりを誇りに思い、すばらしい沖縄県民の利益のために、彼らが引き続き密接に協力していくものと確信をしております。

今回の返還は、現在進行中の基地の整理統合の新たな一歩でございます。私は、先日グアム出張の機会がございましたが、グアムでは、現行のDPR I計画（米軍再編計画）の下で米軍部隊を受け入れるための施設の建設が急ピッチで進行しておりました。

本日返還される4ヘクタールの土地は、宜野湾市道11号線の拡幅により、全沖縄県民にとっておおいに利益になるものと存じます。私は、この重要なプロジェクトに関与できますことを誇りに思います。

ここ最近の近隣諸国の動きを見ても、新たな脅威が増していることは、誰の目から見ても明らかです。先週末にも、日本に向けてミサイルが発射されたところです。

60年以上に及ぶ強固な日米同盟が今以上に地域的安定と安全にとって重要であったことはありません。われわれが一丸となつてこの問題に取り組むことがより重要となっているのです。

日米のパートナーシップとフレンドシップは歴史的で、またユニークなものであり、お互いに強固な協力関係とチームワークを必要とする関係性の下にあります。

本日は、チーム沖縄にとってすばらしい日となり、その一員であることを誇りに思います。今日のこの日の成功にご尽力いただいたすべての方々へお祝いの言葉を述べさせていただきます。おめでとう、そしてありがとうございました。



石原宏高内閣府副大臣  
(当時)の挨拶



祝賀会にご出席いただいた(左から)寺田稔議員、斉藤鉄夫議員、吉田宣弘議員、伊波洋一議員、新里米吉県議、佐藤正久議員代理、國場幸之助議員代理



祝賀会での沖縄国際大学琉球風車によるエイサーの演舞

## 普天間飛行場東側沿いの土地返還に係る地権者説明会の開催

7月23日、当局と宜野湾市は、宜野湾市民会館において、普天間飛行場東側沿いの土地所有者（約130名）を対象に、返還に係る地権者説明会を開催しました。



説明会の様子

説明会では、中嶋局長と佐喜眞市長の挨拶の後、当局から返還に係る経緯と返還後に実施する支障除去措置等について、宜野湾市から返還跡地に整備される市道宜野湾11号及び中原進入路の道路整備計画について説明を行いました。

その後、参加された方々から様々なご質問・ご意見を承りました。



佐喜眞宜野湾市長からの挨拶

## 小野寺防衛大臣の沖縄訪問

8月14日、小野寺防衛大臣は、8月の組閣に伴う大臣就任後初めて沖縄を訪れました。

午前、平和祈念公園において戦没者墓苑に献花し、平和の礎等を訪れた後、那覇市内において、シュローティ在日米軍副司令官及びロック米海兵隊太平洋基地司令官との面談を行いました。

午後には、沖縄県庁において翁長沖縄県知事と会談を行い、その後、航空自衛隊那覇基地を視察し、隊員に訓示しました。



平和祈念公園を訪問



自衛隊那覇基地での訓示の様子

## 福田防衛大臣政務官の沖縄訪問

9月1日、福田防衛大臣政務官は、就任後初めて沖縄を訪れました。

午前、普天間飛行場及び嘉手納飛行場を視察し、午後には、両飛行場関係の市町村長等と面談を行いました。

面談の中で、福田政務官から沖縄関係経費（p 10参照）等についてご説明し、「沖縄におけます住宅防音予算は、待機世帯が相当数に上ることを踏まえ、対前年度比2.2倍、金額で63億円増、全体で114億円を要求しており、飛行場周辺における住宅防音工事につきましては、着実に実施して、騒音対策に鋭意取り組んでまいります」旨の挨拶を述べました。



面談の様子

## オーストラリアで発生した第31海兵機動展開隊所属のMV-22オスプレイによる事故について

### ○事故の概要

日本時間8月5日(土)16時10分頃、第31海兵機動展開隊に所属するMV-22オスプレイが、オーストラリア東海岸沖(クイーンズランド州ショールウォーター・ベイ訓練場の沖合約18マイル)を飛行中に事故が発生し、海に落下した。当該機は、強襲揚陸艦ボノム・リシャルを発艦し、ドック型輸送揚陸艦グリーン・ベイへの最終進入中にデッキに衝突した。事故原因については、調査中である。乗員26名中23名は救助されたものの、3名が死亡した。捜索救助活動は、現在、事故機の回収作業に移行している。

### ○米軍の対応

事故後、米軍は徹底的な調査を開始した。第31海兵機動展開隊司令官は、オーストラリアに展開している第31海兵機動展開隊所属のMV-22オスプレイの飛行を48時間停止し、部隊の安全及び運用手順を確認した。また、部隊の指揮官が関係者の目撃情報を収集し、当該機の整備記録及び搭乗員の訓練記録を確認し、第31海兵機動展開隊の航空幹部も交え事故に繋がった全要因を綿密に分析した。

更に、飛行隊の隊長が、飛行隊所属の全ての隊員に飛行基準及び安全手順を遵守することの重要性を改めて強調するよう指示した。

米軍は、MV-22オスプレイに安全な飛行を妨げるような機械的、構造的及びシステム上の欠陥はないと認識している。事実関係及び事故発生までの状況の初期調査並びに上記の対策に基づいて、第31海兵機動展開隊は、MV-22オスプレイの飛行再開は安全であるとの結論に達し、第3海兵機動展開部隊の承認を得た。第3海兵機動展開部隊司令官は、危険な、かつ、飛行の準備ができていない航空機を飛行させ、搭乗員及び地元住民を危険に晒すようなことは決してしないとしている。

### ○防衛省の評価

今回の事故は、陸上への着陸よりはるかに複雑な、海上を移動中の艦船への着艦の最中に発生したものであること、米軍が事実関係及び事故発生までの状況を初期調査で確認し、MV-22オスプレイの飛行は安全であると結論付けていること、MV-22オスプレイに安全な飛行を妨げるような機械的、構造的及びシステム上の欠陥はないと米軍が認識していること、第31海兵機動展開隊が部隊の全隊員に対し安全及び運用の手順を再度徹底させたことを踏まえると、防衛省の知見に照らして、合理的な措置がとられているとみられ、米軍がMV-22オスプレイの安全な飛行は可能であると説明していることは理解でき、引き続き安全に最大限の配慮をした飛行を求めていくことが妥当と考える。

防衛省としては、米側に対し、本件事故の情報を開示し、現在実施中の事故調査が終了し次第、当該事故調査報告書を提供するよう求め、米側もこれを了承した。

## 大分空港で発生したMV-22オスプレイの緊急着陸について

### ○緊急着陸の概要

8月29日(火)18時30分頃、第1海兵航空団所属のMV-22オスプレイが岩国飛行場から普天間飛行場へ向かう途中、エンジンの異常を察知し、安全を確保するため、通常の手順に従って緊急着陸を行ったもの。

### ○米軍の対応

当該緊急着陸を受け、米軍は機体の徹底的な安全点検を実施した。9月6日に、左右のエンジン交換が完了し、その後、地上における機体のテストを大分空港で行った。エンジンに不具合が生じた原因については、解析中。

当該機は、地上において機体の全てのシステムが正常に作動可能であることを確認した後、大分空港周辺で試験飛行を行い、機体の最終点検を実施した。

これら徹底した安全点検の結果、通常の飛行に問題がないことが確認されたことから、9月8日、岩国飛行場に向け離陸し、同月9日、普天間飛行場に帰投した。

## 名護市沖で不時着水した MV-22オスプレイの米軍事故調査報告書について

平成28年12月13日、米海兵隊普天間飛行場所属のMV-22オスプレイが沖縄県名護市の東海岸沖合に不時着水した事故については、米国政府から日本政府に対し、その状況及び原因を調査した結果をとりまとめた最終報告書が提供され、9月11日に当局から県内関係自治体等へ情報提供を行いました。

同報告書及び米側からの説明によれば、本件事故の原因は、困難な気象条件下で空中給油訓練を行った際のMV-22オスプレイのパイロットのミスであるとされています。

なお、事故調査報告書の概要及び米側から説明を受けた再発防止策等の詳細については、防衛省ホームページに掲載しております。

### 各事案に対する沖縄防衛局の取り組み

当局では、各事案の発生について、第一報を受けたのち、米側に対し、事実関係の速やかな情報提供、原因究明及び再発防止について申し入れを行うとともに情報収集に努め、得られた情報は速やかに、県内関係自治体等へ情報提供を行ってまいりました。

当局としては、引き続き、得られた情報については関係自治体等へ情報提供を行い、米側に対し、MV-22オスプレイを含め、航空機の安全確保に万全を期すよう求めてまいります。

### 嘉手納飛行場を巡る諸問題への対応について

パラシュート降下訓練や旧海軍駐機場の使用といった、嘉手納基地を巡る諸問題については、沖縄県や嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会（三連協）から要望を受けるなど、地元から強い懸念の声が寄せられております。

旧海軍駐機場の移転は、平成8年のSACO最終報告において騒音軽減イニシアティブとして盛り込まれ、本年1月完了したところです。また、パラシュート降下訓練についても、同報告において伊江島補助飛行場に移転することとされており、嘉手納飛行場の使用はあくまで例外的な場合に限るものと認識しております。

8月17日に行われた日米安全保障協議委員会（「2+2」）においても、小野寺防衛大臣からマティス国防長官に対し、地元への配慮等を改めて要請しております。

当局としても、こうした地元の声を受け、SACO最終報告の趣旨に沿った運用が行われるよう、米側への申し入れを含む必要な措置を実施してきているところです。



日米安全保障協議委員会（「2+2」）

### 4月～8月における騒音状況について

嘉手納飛行場及び普天間飛行場からの騒音被害については、本年4月～8月の間、嘉手納飛行場の関連で合計285件（昨年154件）、普天間飛行場の関連で合計257件（昨年328件）の抗議の声を承っております。

当局においては、航空機騒音自動測定装置による騒音状況及び目視による離着陸状況の把握に努めており、また、累次の機会に、米側に対して、外来機を含む航空機の運用に当たっては、安全な飛行の確保に努めると共に、航空機騒音規制措置（※）の遵守を徹底し、周辺住民に与える影響を最小限にとどめるよう申し入れております。

※平成8年に合同委員会で合意された航空機騒音規制措置については、22時から翌朝6時の間の飛行及び地上での活動は、運用上の所要のために必要なものに制限されることとなっています。

## 普天間飛行場代替施設整備事業の進捗状況

キャンプ・シュワブの沿岸部における普天間飛行場代替施設整備事業につきましては、昨年12月に工事を再開し、本年4月下旬に護岸工事に着手したところ、今般、大浦湾側の護岸約100mを整備しました。

8月末現在、ボーリング調査及び仮設道路の整備を行っています。

当局といたしましては、普天間飛行場の1日も早い返還を実現し、沖縄の負担を早期に軽減していくよう着実に工事を進めていく考えです。また、工事の実施に当たっては、引き続き、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境に最大限配慮いたします。



大浦湾側の護岸の状況



辺野古浜側の仮設道路の状況

## シュワブ陸上部におけるコンクリートプラント完成

キャンプ・シュワブにおいては、普天間飛行場代替施設建設事業のほか、陸上部において、埋立工事と直接関係のない施設の建設工事を行っているところです。

陸上部における施設の建設に必要なコンクリートを製造するコンクリートプラントが、7月下旬に完成し、稼働を開始しています。

引き続き、キャンプ・シュワブ陸上部における施設の建設についても、順次、安全に配慮しながら進めてまいります。



コンクリートプラント

## 第8回環境監視等委員会を開催



第8回環境監視等委員会での議論の様子

7月7日、沖縄防衛局において、「第8回普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会」を開催しました。

当日は、当局より、サンゴ類の分布域やジュゴンの確認状況、工事等の実施状況などについて説明を行い、討議が行われました。

普天間飛行場代替施設建設事業は、これまでも環境監視等委員会の指導・助言を受け、環境の保全に事業者として万全を期して進めてきたところであり、今後も引き続き同委員会の指導・助言を踏まえて適切に進めてまいります。



## 「第 5 回久辺三区の振興に関する懇談会」の開催について

8 月 7 日、沖縄防衛局において、辺野古区長、豊原区長、久志区長、沖縄防衛局長、沖縄総合事務局長が出席し、「第 5 回久辺三区の振興に関する懇談会」を開催しました。本懇談会には、地元から各区行政委員長、辺野古区代替施設等対策委員長、名護市議会の宮城議員、本府省から防衛省地方協力局長、内閣府政策統括官及び沖縄振興局長が同席したほか、多数の各区行政委員の方々にも議論の様子を傍聴していただきました。

防衛省・沖縄防衛局としては、本懇談会の結果も踏まえ、関係府省と緊密に連携し、地元の皆様の要望の実現に向けて最大限の努力をまいります。



懇談会の様子

## 第 25 回「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」について

6 月 13 日、「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」の第 25 回目の会合が、外務省沖縄事務所において開催され、最近の米軍航空機に関する事案対応や各種訓練の実施結果などについて協議しました。今後も各種訓練等を計画的に推進することにより円滑かつ迅速な米軍事故対応が行われるよう、認識の共有を図るとともに、関係機関の連絡・協力体制の強化を図っていくことで合意しました。なお、本協議会は、平成 16 年 8 月に発生した米海兵隊ヘリコプターによる沖縄国際大学への墜落事故を機に、在沖米軍関連事故が発生した際、現場における関係機関の連携強化を図り、政府一体としての危機管理を実現するために設置されたものです。



協議会の様子

## 平成 29 年版防衛白書の刊行

防衛白書は、我が国の防衛政策への理解の促進を図るために毎年夏頃に刊行しており、前回の刊行から概ね 1 年間に発生した事象や取りまとめた政策などを中心に記述しています。

29 年版防衛白書は、北朝鮮による核・弾道ミサイルの開発・運用能力の向上や中国の東・南方海空域における活動の活発化など我が国を取り巻く安全保障環境の課題とそれに対する防衛力整備、米新政権の政策方針と日米同盟深化の取組、平和安全法制施行後の自衛隊の新任務や訓練等の活動、防衛力を支える人的基盤の充実・強化と女性隊員の更なる活躍の推進等を中心に作成されました。

主な特色として、多岐に渡る内容を国民の皆様に分かり易くお伝えできるように、巻頭特集を大幅に増やし、重要なテーマや専門性の高い用語について写真や図表を多く用いて解説しています。

防衛白書は官報販売所や一般の書店等で販売されているほか、防衛省ホームページ (<http://www.mod.go.jp/>) にも内容が掲載されています。また今年度より、より多くの方々に防衛白書を読んでもらうよう、民間電子書籍市場 (kindle など) において無料でダウンロードできるようになりましたので、是非ご覧下さい。



平成 29 年版防衛白書 (表紙)

## 平成30年度概算要求における沖縄関係経費

(単位：百万円、%)

事 項	平成29年度 予 算 額	平成30年度 概算要求額	対前年度 増▲減額	対前年度 伸 率
1. 基地周辺対策経費	< 16,972 > 19,106	< 28,972 > 26,014	< 12,000 > 6,908	< 70.7 > 36.2
住宅防音	< 5,085 > 5,114	< 11,630 > 11,431	< 6,545 > 6,317	< 2.3倍 > 2.2倍
周辺環境整備	< 11,887 > 13,992	< 17,342 > 14,583	< 5,455 > 591	< 45.9 > 4.2
2. 補償経費等	< 102,837 > 102,790	< 105,300 > 104,751	< 2,463 > 1,961	< 2.4 > 1.9
(1) 施設の借料	100,611	101,523	912	0.9
土地等の借料	99,844	100,214	370	0.4
その他(道路使用等)	767	1,309	542	70.7
(2) 漁業補償	1,055	1,113	58	5.5
(3) その他の補償等	< 1,170 > 1,123	< 2,664 > 2,115	< 1,494 > 992	< 2.3倍 > 88.3
3. 基地従業員関係	47,401	47,712	311	0.7
4. 提供施設の整備	< 7,404 > 7,939	< 7,120 > 7,148	< ▲ 284 > ▲ 791	< ▲ 3.8 > ▲ 10.0
5. 提供施設の移設	< 0 > 0	< 10 > 10	< 10 > 10	< — > —
合 計	< 174,614 > 177,236	< 189,113 > 185,635	< 14,499 > 8,399	< 8.3 > 4.7

注：1 上段&lt; &gt;内は、契約ベースです。

2 計数は、四捨五入によっているの符合しないことがあります。

## 嘉手納町立嘉手納小学校講堂が完成

7月4日、嘉手納小学校の児童の集会、学習を目的とした「嘉手納町立嘉手納小学校講堂」が完成し、落成式典が挙行政され、多くの関係者が出席し、施設の完成を祝いました。

嘉手納町は、同講堂の整備に当たり、嘉手納飛行場を離発着する米軍航空機による音響を防止又は軽減するため、防音サッシや空気調和設備（エアコン等）の設置等に要する費用について防衛施設防音事業を活用しました。



テープカットをする當山町長ほか

当局といたしましては、本施設が有意義に活用され、子ども達の個性がより育まれ、健やかに成長することを願っており、今後とも防衛施設の周辺にお住まいの皆様方の生活環境の改善のための各種施策の実施に取り組んでまいります。



完成した嘉手納小学校講堂の外観

## 浦添市屋富祖地区学習等供用施設が完成

7月7日、浦添市屋富祖地区に居住する住民の集会、学習、保育及び休養を目的として建設された「屋富祖地区学習等供用施設」の落成式典及び祝賀会が挙行政され、多くの地元住民を始めとする関係者が出席し、施設の完成を祝いました。

本施設は、浦添市が普天間飛行場を離発着する米軍航空機により生じる音響の障害の緩和に資するため、民生安定助成事業（防音助成）を活用して整備されたものです。



屋富祖地区学習等供用施設の外観

式典においては、松本市長より「屋富祖自治会の皆様をはじめ、本日お集りの皆様が、この施設を集いの拠点とし、地域の発展に努めながら、本市の市政運営にご協力を賜りますようお願い申し上げます」と本施設の自治会活動に果たす役割に大きな期待を寄せられていました。

当局といたしましては、本施設が有意義に活用され活発な自治会活動が展開されることを願っており、今後とも防衛施設周辺にお住まいの皆様方の生活の安定及び福祉の向上に寄与するための各種施策の実施に取り組んでまいります。



テープカットをする松本市長ほか

## 宜野座村立共同調理場が完成

8月9日、宜野座村立共同調理場の落成式典及び祝賀会が開催され、當眞村長をはじめ、多くの関係者の方々が出席し、施設の完成を祝いました。

本施設は、宜野座村が再編交付金を活用して建設したもので、衛生的な調理環境を維持するドライシステムを採用するとともに、調理作業区域を分離するなど徹底した衛生管理が図られています。

式典においては、当局の中嶋局長より「調理作業の様子を見学できる見学スペースを設けることにより、宜野座村の子ども達が食の大切さをより実感でき、心身の健全な成長に寄与するものと確信しております」旨の祝辞を述べさせていただきました。

当局といたしましては、引き続き、地元のご要望に添えるよう努めてまいるとともに、今後とも宜野座村の住民の生活の利便性の向上及び産業の振興に寄与するための各種施策の実施に取り組んでまいります。



完成した共同調理場の外観



テープカットをする當眞村長ほか

## 特別優秀工事等顕彰及び優秀工事等顕彰について

防衛省では、地方防衛局等が発注する建設工事及び業務（以下、工事等）のうち、施工状況や実施状況が特に優れているなど、全国的に模範となる工事等について、特別優秀工事等として大臣官房施設監が顕彰する制度を創設しました。沖縄防衛局からは、8件の工事及び1件の業務及びその技術者を推薦したところ、全ての工事等が選出され、7月27日に小柳施設監から顕彰されました。

### ○特別優秀工事

工事名	受注者
北部(H25)着陸帯移設工事	㈱北勝建設
北部(H26)着陸帯移設工事	仲程土建㈱
北部(H28)着陸帯移設工事（指定部分）	本部造園㈱
普天間(27)構内道路整備工事（その1）	㈱大寛組
普天間(27)構内道路整備工事（その2）	㈱國場組
普天間(27)構内道路整備工事（その3）	㈱富士建設
普天間(27)構内道路整備工事（その4）	㈱沢建設
普天間(27)防護壁整備工事	㈱川上建設

### ○特別優秀業務

業務名	受注者
北部（H26）環境モニタリング調査業務	㈱沖縄環境保全研究所

また、当局においても、工事成績評定点の高い工事等の中から、目的物の出来形又は品質の優れているものであって、他の模範とするにふさわしいものを選定し、調達部長から顕彰を表彰しております。

平成28年度に完成した事案の中から、8件の工事及び7件の業務並びにその技術者を選定し、7月13日に調達部長が顕彰しました。

顕彰制度は、入札参加者の受注意欲を高め工事目的物の品質確保を図る等、施設取得の円滑な推進に資することを目的としており、顕彰された実績は、総合評価方式等における企業の施工能力の評価項目において加点することとしています。

今後とも当局で発注する工事等へ積極的に参加していただきますようお願いいたします。

### ○優秀工事

工事名	受注者
海自那覇(25)庁舎新設電気工事	沖電水工事㈱
与那国(26)駐屯地新設建築工事(1地区)	五洋建設九州支店
宮古島(26)局舎(B)等新設建築工事	㈱大米建設
ハンセン(26)倉庫(0642)新設機械工事	㈱玉城電気設備
宮古島(26)局舎(A)新設機械工事	㈱東洋設備
宮古島(26)局舎(B)等新設機械工事	㈱和空調設備㈱
ハンセン(27)倉庫(0642)新設土木工事	㈱ホカマ
旧嘉手納飛行場(27)土壌処理工事	安岡建設㈱

### ○優秀業務

業務名	受注者
宮古島(26)建築工事監理業務	㈱泉創建エンジニアリング
与那国(26)補土木工事監理業務	㈱協和コンサルタンツ 沖縄営業所
与那国(26)建築工事監理業務	㈱協和設計事務所 沖縄事務所
与那国(26)設備工事監理業務	現代空調研究所・ネットアルファ共同体
与那国(26)宿舎新設設備工事監理業務	㈱産研設計
与那国(25)環境モニタリング業務	日本工営㈱沖縄事務所
与那国(25)土木工事監理業務	パシフィックコンサルタンツ ㈱沖縄支社

## 建設工事に係る入札・契約制度説明会について

5月から7月にかけて、名護市建設業協会、沖縄商工会議所、沖縄県建設業協会浦添・西原支部、宜野湾市商工会及び沖縄県電気管工事業協会に対する沖縄防衛局の建設工事に係る入札・契約制度説明会を実施し、多くの企業にご参加いただきました。

この説明会は、これまで建設業協会や商工会等からの要請を受け開催しており、調達部長、調達計画課長、契約課長等が出席し、建設工事に係る入札・契約制度を説明させていただいているものです。

各説明会においては、冒頭、茂籠調達部長（当時）から沖縄防衛局が発注する建設工事の入札・契約方式は、原則一般競争入札であり、また、価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式を導入していることをお話した上で、「優良な地元企業の受注機会の拡大のための数々の施策も導入していますので、本日の説明会で当局の入札・契約制度に対するご理解を深めていただき、多くの企業の皆様が当局の入札に益々参加していただけることを期待しています」との挨拶をさせていただきました。その後、当局担当者から当局における建設工事の入札・契約制度について、地元企業の皆様がより入札に参加しやすい環境の整備に係る施策等の説明を行いました。



宜野湾市商工会への説明会の様子

## 嘉手納ハーリーで力漕

7月2日、嘉手納漁港において嘉手納ハーリーが開催され、沖縄防衛局からは3チームが参加しました。

当局は、本大会に、平成20年から参加していますが、これまで予選敗退が続いていました。しかしながら、苦節10年目にして、当局調達部で構成したチーム「黒い闘魂ボンバイエ」が、茂籠部長（当時）指揮の下、豪快な權さばきで、悲願の準決勝進出を果たしました。

今年もたくさんの地元の方々と交流を深めることができ、楽しい1日となりました。



力漕する茂籠部長（当時）と「黒い闘魂ボンバイエ」



ハイサイくん

「はいさい」に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたらお聞かせください。

連絡先：沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 290-9 沖縄防衛局総務部報道室

メールアドレス：houdou@okinawa.rdb.mod.go.jp